



かがやき

海田西小学校
通級指導教室だより No.11
令和5年9月5日(火)



どんなことで困ってる？

(参考資料 「支援者のための発達障害支援ガイドブック」 令和4年3月 発行：広島県)

「発達障害は10人に1人の健康問題である。」(R2 日本学術会議臨床医学委員会出生・発達分科会)と提起されており、今日では、私たちの生活や学校においてとても身近な障害であると言えます。

発達障害の原因はまだ分かっていませんが、脳の機能障害であり、保護者の育て方や本人の努力不足が原因で起こるものではありません。

発達障害そのものを完治させることは難しいですが、早期から周囲が本人の特性を理解し、その特性に合った支援や環境設定を行うことで、自分らしく生活することは可能です。

そのことを踏まえ、私たち教員は適切な支援について検討し、試行錯誤しながら指導に当たっています。今回は、教室でどんなことに困っているのか、それに対してどのような工夫をしているのかについて一部紹介させていただきます。



① 情報処理の困難さを持っている児童

困っていること	工夫
<ul style="list-style-type: none"> 先生の指示や説明の内容が理解できず、行動に移せない。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容が理解できているか、個別に確認。視覚的なものを活用。(図, 絵, 写真等)
<ul style="list-style-type: none"> 一度に複数の指示や長い説明をされると、何をして良いのか分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つずつ伝える。
<ul style="list-style-type: none"> 説明や指示を間違って解釈して、周囲と違った行動をしてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的に、シンプルに伝える。
<ul style="list-style-type: none"> たとえ話や冗談、曖昧な表現が理解できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 婉曲な表現は、使わない。
<ul style="list-style-type: none"> 重要ではない部分に注目してしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 注視させたい項目を書き出して提示。

② 社会性の困難さを持っている児童

困っていること	工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律が理解できず、チャイムが鳴っても席につけない。 ・授業中に当てられていないのに、出し抜けに思っていることを口にしてしまう。 ・相手の気持ちを考えずに発言したり、行動したりするので、トラブルになる。 ・遊ぶ時のルールが守れなかったり、自分が決めたルールを他の子に守らせようとしていたりする。 ・人との距離感が分からず、近づきすぎてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や図で視覚的に示す。 ・聞く時・話す時を明確にする。 ・コミック会話法等を使い、視覚的に伝える。 ・遊びや活動の前にルールを確認する。 ・パーソナルスペース・水着ゾーンについて教える。



③ 衝動性・多動性の困難さを持っている児童

困っていること	工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・座学が苦手なで、体を動かしたり、立ち歩いたりする。 ・話を最後まで聞かずに、一方的に話してしまう。 ・列に並ぶ事や順番を待つ事が難しい。 ・感情が抑えられず、イライラしたり、他の子に干渉したりしてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先にゴールイメージを伝える。 ・指示を視覚化する。 ・活動の流れを提示する。 活動時間・終わりの時刻を伝える。 ・こうなった時どうするか、事前に本人と決めておく。 クールダウンスペースを用意する。

